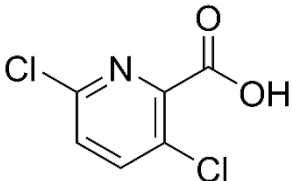


<p>名称</p>	<p>クロピラリド (Clopyralid)</p>										
<p>構造</p>											
<p>用途</p>	<p>除草剤</p>										
<p>作用機構</p>	<p>・ホルモン型の除草剤であり、オーキシン作用を攪乱することにより、除草効果を示すと考えられている。</p>										
<p>登録状況</p>	<p>・国内の登録はなし。米国、カナダ、豪州等で麦類、牧草、とうもろこし等に登録あり。</p>										
<p>農業生産系における動態</p>	<p>・クロピラリドを成分とする除草剤が散布された牧草等には、クロピラリドが残留する。 ・クロピラリドを成分とする除草剤が使用された輸入飼料を給与された家畜のふん尿に移行する。なお、牛乳や肉等にはほとんど移行しない。 ・クロピラリドは難分解性で、堆肥化しても分解されにくく、堆肥中のクロピラリド濃度は低下しにくい。 ・クロピラリドが残留した堆肥を施用すると、感受性の高い植物が異常生育を起こすことがある。</p>										
<p>作物感受性 (被害の受けやすさ)</p>	<p>・作物によってクロピラリドに対する感受性は異なり、敏感な植物については、数 ppb^{注)} という非常に低い濃度で異常生育が発生する可能性がある。 ・最も感受性の高い植物は、主にナス科、マメ科、キク科、セリ科に属する。一方、イネ科の麦・牧草・トウモロコシ、アブラナ科のキャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、果樹類などには、通常の施用量であれば影響しない。</p> <p>注) ppb (ピーピービー) について ppb (ピーピービー) とは 10 億分の 1 の濃度の単位で、非常に微量な濃度を表す単位である。単位の表し方として、1ppb=1µg/kg=1mg/t は同じになる。</p> <p>クロピラリドに対する耐性*</p> <table border="1" data-bbox="414 1635 1404 1926"> <tr> <td>極弱:</td> <td>トマト、ダイズ、エダマメ、サヤエンドウ、ソラマメ、ヒマワリ、コスモス、アスター、スイートピー、クリムゾンクローバー</td> </tr> <tr> <td>弱:</td> <td>ニンジン、エンダイブ、トレビス、シュンギク、フキ、サヤインゲン、ピーマン、シシトウ、キク、ヒャクニチソウ</td> </tr> <tr> <td>中:</td> <td>レタス類**、セルリー、パセリ、イタリアンパセリ、キュウリ、メロン、トウガン、ニガウリ、スイカ、ナス、パレイショ、ラッカセイ、アズキ、ササゲ、ソバ、オクラ、ゴボウ、モロヘイヤ、ツルムラサキ、ヒユナ、ミツバ、タバコ、ベチュニア、マリーゴールド、ベニバナ、ルピナス、オステオスペルマム</td> </tr> <tr> <td>強:</td> <td>アブラナ科、ユリ科、アカザ科、シソ科、ナデシコ科、ヒルガオ科、バラ科</td> </tr> <tr> <td>極強:</td> <td>イネ科</td> </tr> </table> <p>* 品種により耐性評価のランクが変動する場合がある ** レタス類: 結球レタス、サニーレタス、グリーンリーフ、ロメインレタス、チマサンチュ、サラダ菜、ステムレタス</p>	極弱:	トマト、ダイズ、エダマメ、サヤエンドウ、ソラマメ、ヒマワリ、コスモス、アスター、スイートピー、クリムゾンクローバー	弱:	ニンジン、エンダイブ、トレビス、シュンギク、フキ、サヤインゲン、ピーマン、シシトウ、キク、ヒャクニチソウ	中:	レタス類**、セルリー、パセリ、イタリアンパセリ、キュウリ、メロン、トウガン、ニガウリ、スイカ、ナス、パレイショ、ラッカセイ、アズキ、ササゲ、ソバ、オクラ、ゴボウ、モロヘイヤ、ツルムラサキ、ヒユナ、ミツバ、タバコ、ベチュニア、マリーゴールド、ベニバナ、ルピナス、オステオスペルマム	強:	アブラナ科、ユリ科、アカザ科、シソ科、ナデシコ科、ヒルガオ科、バラ科	極強:	イネ科
極弱:	トマト、ダイズ、エダマメ、サヤエンドウ、ソラマメ、ヒマワリ、コスモス、アスター、スイートピー、クリムゾンクローバー										
弱:	ニンジン、エンダイブ、トレビス、シュンギク、フキ、サヤインゲン、ピーマン、シシトウ、キク、ヒャクニチソウ										
中:	レタス類**、セルリー、パセリ、イタリアンパセリ、キュウリ、メロン、トウガン、ニガウリ、スイカ、ナス、パレイショ、ラッカセイ、アズキ、ササゲ、ソバ、オクラ、ゴボウ、モロヘイヤ、ツルムラサキ、ヒユナ、ミツバ、タバコ、ベチュニア、マリーゴールド、ベニバナ、ルピナス、オステオスペルマム										
強:	アブラナ科、ユリ科、アカザ科、シソ科、ナデシコ科、ヒルガオ科、バラ科										
極強:	イネ科										

参照: 「飼料及び堆肥に残留する除草剤の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル」
 ((独) 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所)